

# 1 児童アンケート結果・考察(課題)

\*文章中に出てくるパーセンテージの数値は、「はい」「どちらかといえばはい」の肯定的な回答の合計値です。

\*〈一昨年度⇒昨年度⇒本年度〉の数値です。(調査対象 児童189名)

(1) 朝食を毎日食べている	91.0 ⇒ 96.0 ⇒ 91.7 %
(2) 朝や人にあつたときに挨拶をしている	95.8 ⇒ 92.9 ⇒ 92.3 %
(3) 学校の決まりを守っているか	96.3 ⇒ 92.1 ⇒ 93.9 %
(7) 家で学校の宿題をしている	96.8 ⇒ 95.5 ⇒ 87.8 %

基本的な生活習慣に関する項目では、本年度も9割以上の児童が肯定的に答えており、比較的良い生活習慣が身につけてきていると考えられる。特に朝食についてはどの学年もほとんどの者がほぼ毎日食べて登校できている。今後も家庭環境等に配慮しつつ、家庭との連携により、毎朝食べる習慣をつけさせるよう継続していきたい。挨拶に関しては、感染症対策でのマスクの着用により、全体的に声が小さい。今後も、相手に気持ちのよい声を届けられる「よい挨拶ができる学校」を目指して全校で取り組みたい。

(4) 家の人と学校の出来事について話をしますか	78.9 ⇒ 80.8 ⇒ 81.2 %
--------------------------	----------------------

本年度は昨年度よりは少し改善されたが、約2割の児童が学校の出来事をあまり話していない状況だった。保護者と児童の相互理解を図る上でも、学校の取組等を知ってもらう上でも家族の会話は非常に重要である。学校ではホームページを活用して日々の出来事を紹介している。家族の会話の話題として提供することで家族の会話の機会をもてるよう進めていきたい。

(9) 学校に行くのは楽しい	90.5 ⇒ 85.5 ⇒ 81.2 %
----------------	----------------------

「楽しくない」「あまり楽しくない」が全体で19%ほどいる。2～4割の児童が回答した学年もある。どの児童にとっても学校が楽しい場所となるよう、授業の工夫、改善や学校行事の見直しなどを進めていきたい。また、一人一人の児童に心を配り、信頼関係をさらに構築していきたい。そして、学校が楽しくない要因を取り除いていくよう努力を続けたい。

(5) 失敗を恐れずに挑戦している	82.6 ⇒ 80.7 ⇒ 84.5 %
(6) 自分にはよいところがあると思う	86.8 ⇒ 90.4 ⇒ 90.1 %
(11) 友達と話し合っって学級の決まりを決めている	87.8 ⇒ 85.5 ⇒ 86.2 %
(13) 学級の皆で協力して何かをやり遂げうれしかったことがある	89.9 ⇒ 81.4 ⇒ 81.2 %

自尊感情や自己有用感に関連する項目である。今年度も平均8～9割近い児童が肯定的に答えているものの意識の低下が見られるものもあり十分とはいえない。

5月より全校が一斉に集まったの集会活動などもできるようになり、それぞれの学年の立場で協力し、体験を積めたことは、児童の成長にもつながっている。自分の能力や可能性にチャレンジする機会や、自分に自信が持てるものが見つけられる活動や体験ができるよう今後も計画を進めていきたい。

学習面でも全校で学力向上に取り組み、児童が自分に自信を持って成長できるよう進めていきたい。

(14) いじめ、仲間外しをしないで友達に優しくしている	⇒ 96.8 ⇒ 95.5 ⇒ 93.9 %
------------------------------	------------------------

児童の普段の行動の中にも優しさを感じるものがよくある。アンケートでも自分の行動をふりかえり、反省できている児童もいる。いじめを許さない強い心、思いやりのある心を育むようこれからも人権教育、道徳教育を推進するとともに、1人1人を大切に、支え合える集団となるような仲間づくりを進めたい。

(8) 読書は好きですか	76.8 ⇒ 69.3 ⇒ 70.7 %
(16) 一日どれくらい読書を読みますか(昨年度⇒本年度)	

2時間:7.5⇒6.1% 1～2時間:7.5⇒8.3% 30分～1時間:18.6⇒30.9%  
30分まで:23.6⇒16.0% 10分まで:24.1⇒18.2% 全くしない:18.6⇒20.4%

学校では毎週末に家庭読書の日を設定し児童には呼びかけている。しかし、学年が上がるにつれて読書に対する抵抗が大きくなる傾向が見られる。「30分～1時間読書をする」児童が大幅に増えたも一方で「全くしない」児童も増えており、二極化の傾向が見られる。

児童の家庭での過ごし方の中に様々なメディア等に親しむ時間も増えている。読書の習慣化を進めるためにも、家庭でのメディア使用の制限や計画的な読書時間の設定など家庭との連携を図りたい。

(17) 授業の中でわからないことがあったらどうするか(昨年度⇒本年度)

その場で先生に聞く:28.1⇒40.9% 終わって先生に:9.5⇒6.1%  
友達に:28.1⇒24.9% 家の人に:15.1⇒10.5% 塾:1.5⇒1.7%  
自分で調べる:13.6⇒13.3% そのまま:4.0⇒2.8%

教師に聞く割合が増えるなど、児童がわかろうと自ら行動できるようになっている。今後も教師からの声かけや友達との教え合いの時間を取り入れるなど、わからないときに自分がどう行動すれば良いかの方策を身につけさせたい。

(18) 国語の授業内容はよくわかりますか 95.8⇒93.5⇒90.6%  
(19) 算数の授業内容はよくわかりますか 92.6⇒88.0⇒82.3%  
(20) 理科(生活科)の授業内容はよくわかりますか 93.7⇒96.0⇒91.7%

授業内容がわかる子の割合は、国語・理科は数年約9割となっている。ただ算数については低下傾向にある。タブレット端末の活用により、個人の理解状況にあった課題への取り組みや学習意欲の向上を図るとともに、児童の学力向上に繋がるような、どの子もわかる授業づくりを目指し教師の授業改善にも努めたい。

(10) 先生や友達の話や意見を最後まで聞くことができる 94.7⇒90.5⇒91.7%

聞くことについて、約9割と比較的高い値となっている。引き続き「聞き方名人」での指導や、最後まで話を聞くことが苦手な児童への指導など、聞くことの大切さについて今後も指導に取り組んでいきたい。児童の状況によりTT等による個別支援を行う等の工夫も行っていく。

(12) 友達の前で自分の考えや意見を発表している 74.0⇒71.8⇒79.0%  
(15) 自分の考えを説明したり、文章を書いたりすることは得意だ 56.1⇒52.3⇒58.1%  
(21) 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりしている 78.3⇒73.9⇒77.4%  
(22) 算数の授業で考え方がわかるようにノートに書く 86.3⇒88.5⇒87.3%

授業の中に、自分の考えや意見を発表する機会を多く取り入れるようにしたり、書くことについても、各教科の中に「書く活動」を多く取り入れ考えをまとめさせるようにしている。児童もそうした活動に慣れてきたことがうかがえる。今後も、考えや意見を発表したり、じっくりと「書く活動」に取り組む時間を確保し、自分の考えを説明したり文章を書いたりすることが得意といえる児童を育てていきたい。

(23) 元気なときはじぶんで歩いて学校へ来ている 82.0⇒74.9⇒77.9%

全校の4～5人に1人が車の送迎で登校している状況である。全ての保護者に、健康増進・体力向上に向けての徒歩通学への理解、協力を求めたいところではあるが家庭の事情や不審者対応の面から難しい。学校周辺の通学路の安全面から、保護者には学校から離れたところでの車の乗降を呼びかけ、少しでも児童の歩く距離を伸ばせるよう協力をお願いしていく。